

サーキュラーエコノミーと DPP(デジタル製品パスポート)

総合地球環境学研究所

浅利 美鈴

mezase530@gmail.com

DPP(デジタル製品パスポート)とは？

◆製品のライフサイクルに沿ったトレーサビリティを確保するために様々な情報が記録されたデジタル証明。循環型社会・循環経済(サーキュラーエコノミー)の構築には欠かせないとされる。

◆欧州(委員会)が先行的に制度化を進めている。

○2015年 「循環型経済行動計画」採択

○2020年 新「循環型経済行動計画」採択＝持続的な成長のための欧州の新アジェンダ「欧州グリーンディール」の主要な構成要素の一つ

○2023年7月 自動車の車両設計から生産、廃車までの過程における循環性の向上に向けた自動車設計・廃車(ELV:End of Life Vehicles)管理における持続可能性要件に関する規則案提案

これらの中で、特に、製品の流れをデジタル情報として共有することを前提としたDPP等の新しいコンセプトが提示されている。最終的にはあらゆる業界・製品を対象にする構想だが、直近では、2022年に採択された欧州電池規則に即し、車載電池を皮切りに開発が進んでいる。

第3期SIP課題「サーキュラーエコノミーシステムの構築」 戦略及び計画の趣旨とその後の具体化の状況

■ **Society 5.0における将来像** サーキュラーエコノミー(CE)の概念が社会的に十分受容され、経済合理性に裏付けられたCEバリューチェーンとビジネスモデルが構築された社会。

■ **課題概要** 動静脈企業が連携し、素材、製品、回収、分別、リサイクルの各プレイヤーが循環に配慮した取組を通じてプラスチックCEバリューチェーンを構築。

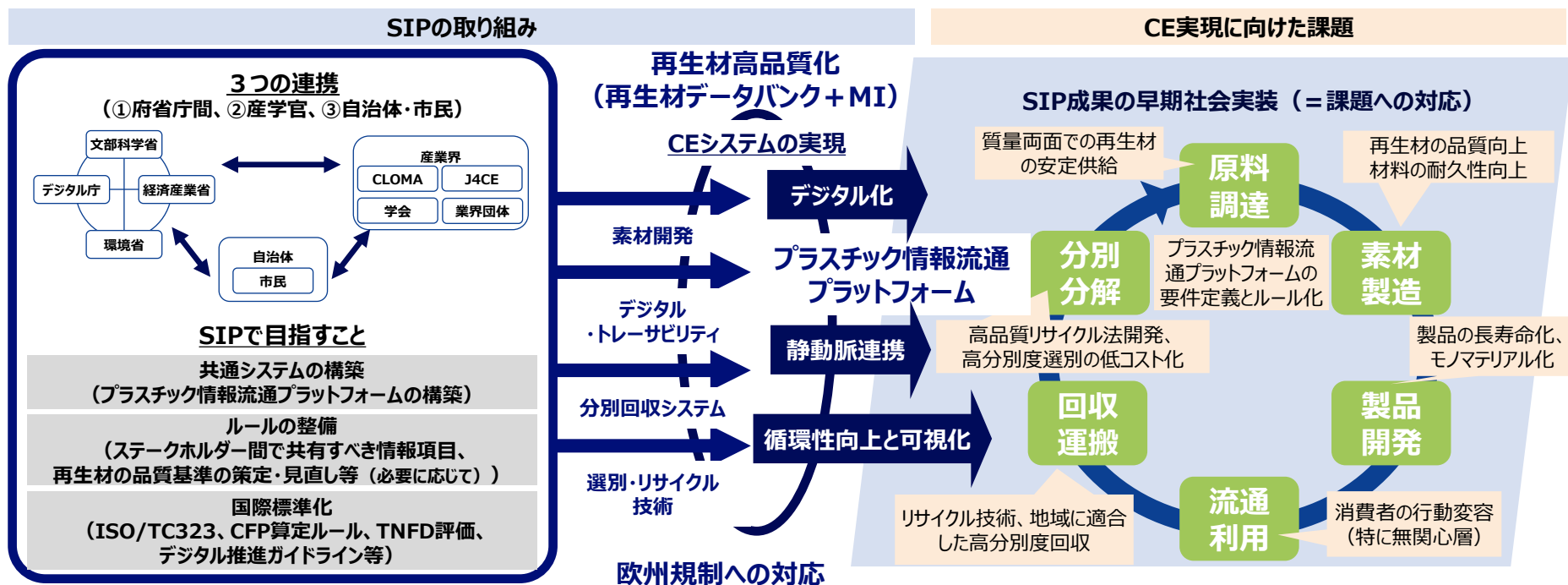
プラスチックの資源循環



- 製品パスポート&ブロックチェーン&トレーサビリティ (動静脈・静動脈連携) の統合システム基盤の構築
- 物に関わる産業・消費行動・環境影響の情報基盤への発展も可能→日本のC E社会構築の基礎になる

高度なプラ資源循環×早期社会実装×循環の科学 サーキュラーエコノミーシステムの構築(まとめ)

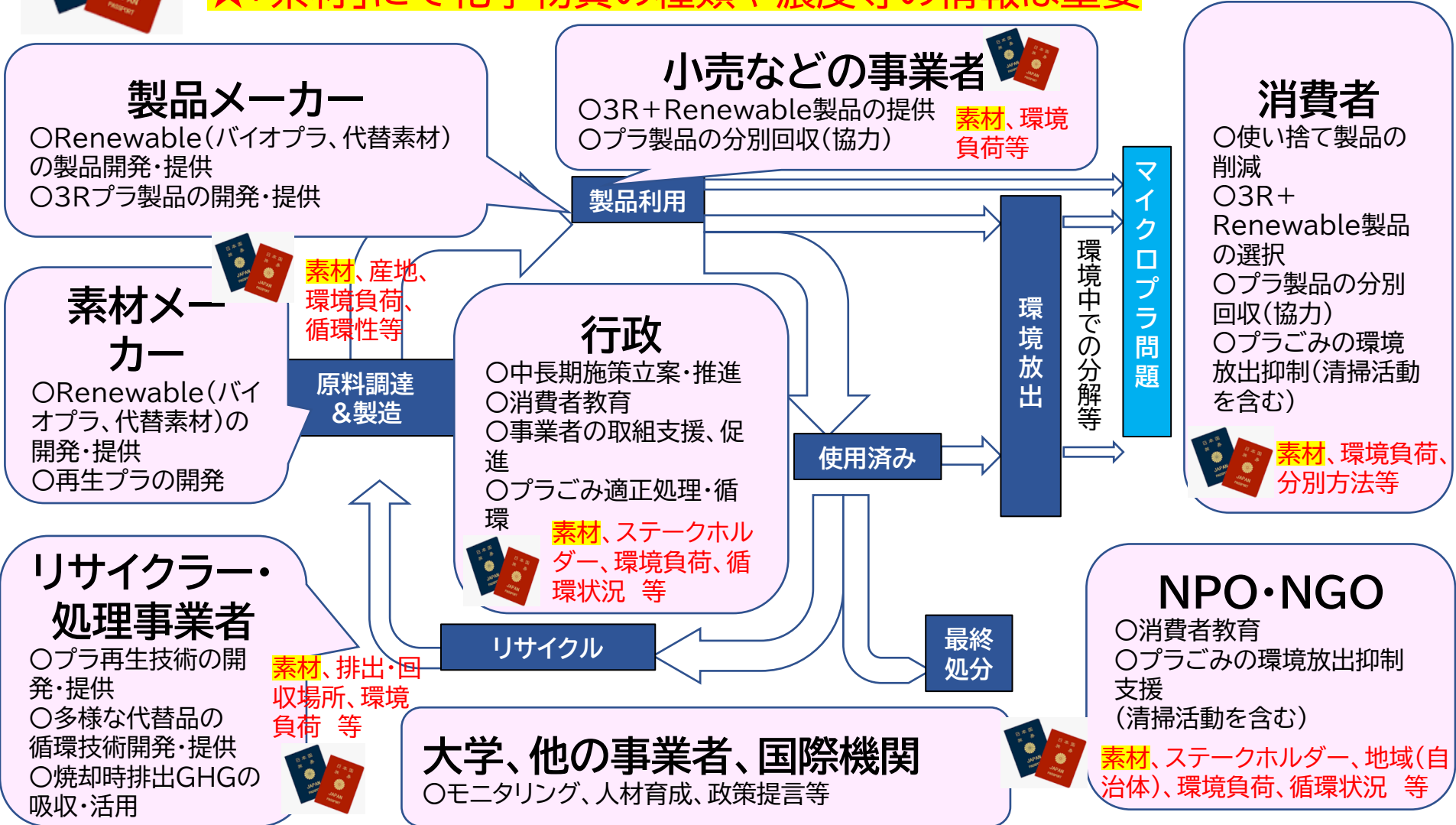
- 第3期SIPであるサーキュラーエコノミー(CE)プロジェクトでは、**デジタル化(プラスチック情報流通プラットフォーム)**、**再生材高品質化(再生材データバンク+MI)**、**欧州規制への対応、TNFD対応**などにより、**高度なプラ資源循環型社会システム**の構築を目指す。
- 再生プラ原料の利用拡大は、**国内のプラゴミ問題の解決**だけでなく、**輸出製品の海外における競争力の向上**にもつながる。
- 関係各府省庁の関連事業と連携し、**成果を確実にかつ早期に社会実装**する。
- ポリマーサイエンス、リサイクル技術、データ科学、社会科学、人文科学などを包括した「**循環の科学**」を**総合知として構築**し、世界に発信する。



プラスチックの持続可能な管理を例に

活用できるDPPの内容(情報)例

★「素材」にて化学物質の種類や濃度等の情報は重要



参考：SIP事業における私たちの研究

①日本版DPPにて消費者に提供する環境面等の情報整理、プラ製品群に最適な対策を同定する手法開発、消費者・事業者の行動変容のモデル化



製品群／消費者・事業者層別の詳細な対策



DPPとの連携



システム評価や取組効果のモニタリング

②循環経済に資する消費行動を、入口から選べる小売拠点を、WEBやモデル地域／店舗、EXPO2025に向けて実証



バリューチェーンを通じたステークホルダー分析・市場デザインにより実装への知見を獲得



機運醸成



未来の循環経済を先取りした小売／家／オフィスを、共創にて出現させる

○製品カテゴリー別対策に則ってデザインされた製品

○数百アイテムのラインナップ(多くの事業者の参画)

○DPPを効果的に活用し、消費者に効果が伝わる仕掛け

○社会・環境コストを加味しつつリーズナブルな価格設定

③DPPと連携した行動変容を促すコミュニケーションプログラムの事例を確立(ユースと発信する「未来可能性」)



持続可能な循環経済構築に向けた共創ネットワークを構築・拡大

●中間目標●

●最終目標●

- 数百人規模以上を対象とした介入実験により、DPPによる行動変容事例を創出
- 消費者の行動変容につなげるために日本版DPPに組み込むべき情報群を提案

- DPPを活用し、消費者及び事業者が参画する複数の具体事例を創出し、リファレンス・アーキテクチャとしてまとめ、広く発信
- 最新の国内外の事例を加え、実践・事例集(書籍等)として取りまとめ

第42回 ライブ&録画配信
2024年1月27日14-16時

SDGs 問答

循環を実現する販売・消費の在り方とは？



武田秀太郎
(九州大学)
SDGs評価の視点
から



宇山浩
(大阪大学)
プラスチック素材
の視点から



大沼進
(北海道大学)
消費者意識・行
動の視点から



浅利美鈴
(総合地球環境
学研究所)
モデレーター

 | SDGs KYOTO TIMEs

× 先進企業のみなさま